

自己実現への道

第 106 回 ― 第 8 章 「信念さえあれば必ず道は開ける」(その 10)

★ 他人の眼を気にせずに、断固わが道をゆけ

自分と自分の夢を信ずる者は、他の人々から信頼される。わが道をひたすら歩んで行こう。
究極の目的から眼をそらはしてはならない。

自分の立場を譲歩することも、自分が立てた計画を調節することも、事情によっては許される。
が、しかし、究極の目標から、絶対に眼を放してはならない。

多少の敗北（失敗）で、あたふたしてはならない。また、いくつかの計画が達成できないとか、資金繰りがスムーズでないとか、運営に軋みが生じたとか、故障が発生したとかで、怯えてはならない。我が道を着々と歩いていくことである。

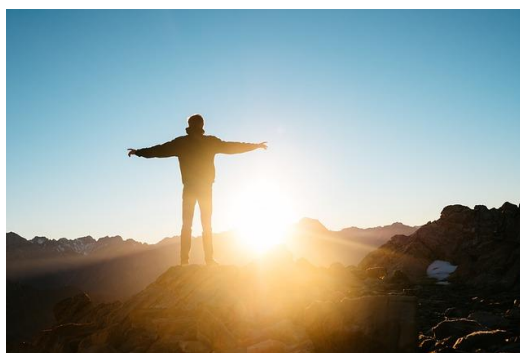
そして、誰もそれを非難しない。多くの人から「信頼できる人間」として評価され、あなた個人の目標だけでなく、あなたが属するコミュニティの目標も、協働して全員で達成することができる。さらにその協働コミュニティには、あなたのような人が数多く集まるようになり、協力して偉大な仕事を成し得る業態へと発展し、その結果、真の世界平和と繁栄を実現するパワーの源となるのだ。

「神があなたをこの世に遣わされたのは、そこにあなたの使命があるからである」

「あなたが見つけた究極の目標は、あなたの子孫のみならず、世界の全ての人々の真の幸福のために役立てよという、使命なのである」神からの命令であり、命を使う仕事なのである。

そして神はこのような人たちのことを裏切ることではない。

だから、神から与えられた目標を、真直ぐに見つめ、断固、信じるとおりに進むのだ。



草の根文化の時代到来！



他人の批判や周囲の状況に左右されるな。なすべきことは断固として貫くがよい。

もしあなたの進む道が正しく、あなたに信念があるならば、今孤独に思えようとも、危機の中にいようとも、信じる道を進むことで、やがて歓喜の時がやってくるのである。

〈MIKO〉

参考文献：Tough Minded Faith For Tender Hearted People by Robert H Schuller より